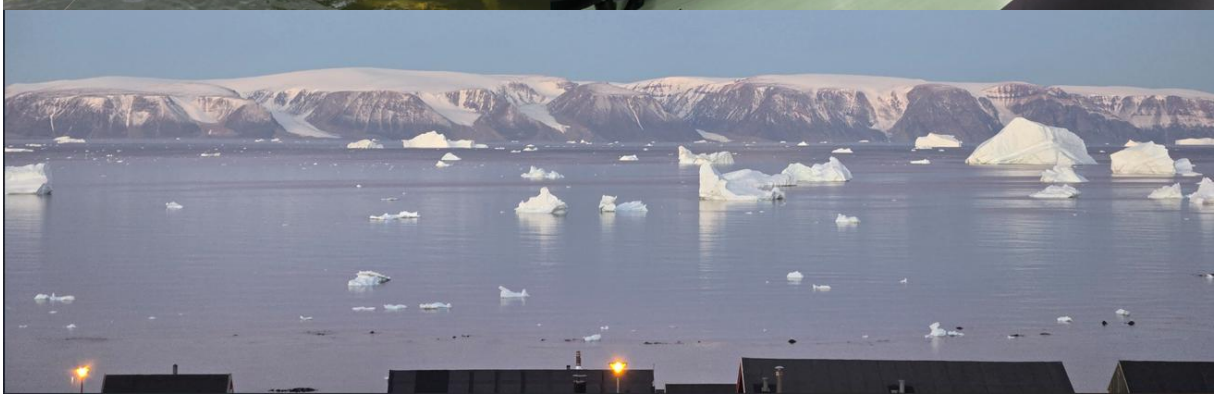
堆積物を用いた近現代における湖沼環境史の変遷解明

エスチュアリー研究センター　准教授　　香月興太

水中に生息するプランクトンの遺骸や湖沼や海洋に流入する元素は湖底・海底に堆積し，堆積当時の水環境や気候を示す環境指標となります．我々が普段目にする景色はかつてどのような景色でありどのように変化してきたのか，変化したあるいは変化しなかった要因はなにか，これらを知ることが湖沼の環境や機能を守り，湖沼の持続的な利用に繋がります．特に沿岸の湖沼は漁業の場としてのみでなく，水源や観光資源として我々の生活と密接にかかわっており，沿岸湖沼の環境変遷を把握することは重要です．当研究室では，湖沼・湿地・海洋の堆積物中に含まれる珪藻とよばれる植物プランクトンの遺骸や堆積物中の元素を対象に，国内外の沿岸環境の復元を行っています．地元である宍道湖・中海，特異な汽水湖沼群を持つ南大東島，海跡湖の集中する北海道道東，多数の塩湖が存在するトルコ，グリーンランドや南極といった極地の沿岸湖沼群，など様々な地域の湖沼を対象に，地形・環境改変や温暖化の影響，あるいは地震津波など災害の影響を評価しています．